

令和5年5月18日（木）

【第25回北陸地域連携プラットフォーム】

閉会挨拶

座長 中村 信一

本日は、最初に福井県立大学、杉山先生から、「北陸地域における製造業の現状と課題—労働生産性向上の実現に向けて—」についてプレゼンテーションをいただきました。

続きまして、関連いたしまして北陸財務局のほうから、製造業における人手不足解消・生産性向上に向けた取組について御説明いただきました。

本日の中心課題は、労働生産性向上に向けた取組であったかと思いますが、皆さんから様々な御意見をいただきました。

私が最も印象に残っている2点を述べて、まとめさせていただきます。

1つには、やはり北陸地方の製造業は、労働集約型の製造業なのだと。それを、産業構造は変えず、会社そのものを労働集約型ではなく、資本集約型にさせて行くのだと。

そのために大事なものは、ロボット化とかIT化であるが、それに関して経営者、従業員が腹落ちすることが非常に大事なのだということが皆さんの一致したところではなかったかと思います。これが非常に印象に残りました。大事なことなのだと思います。

もう1つ、私にとって衝撃的だったのが、最後に杉山先生もおっしゃった、必ずしも良いものが売れるわけじゃないのだと。恐らくこれはヨーロッパ、EU、日本もそうなのだと思う。売れているものが良いものなのだというようなことで、これは時代を敏感に感じ取った製品だというふうなことなのですね。これは分子のほうにおける新しい付加価値の向上、要は、時代を敏感に総合的に、その時代全体を、文化を十分に理解して、そしてそれを吸収して、商品に価値をプラスしていくということが非常に重要なのだと私は理解いたしました。

北陸財務局におきましては、本日の様々な御意見を十分に反映した形で、地域に発信するようお願いできればと思います。

本日はどうもありがとうございました。

以上